

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

今年度も新型コロナウイルス感染防止として、年度当初から新型コロナウイルス感染症の再拡大防止のため、人流の抑制を最優先に段階的緩和期間（リバウンド防止期間）が、4月22日まで設定された。その後も5月22日まで継続され、感染防止対策を徹底した教育活動が求められた。

この間も時差登校、45分授業などを実施しながら、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に備えることになった。今年度も年間を通して時差登校、短縮45分6時間授業で教育活動を行った。

学校行事としては、今年度久しぶりに全学年で体育祭を実施することができた。また、江商祭についても3年ぶりに制限がある中での開催となった。今年度末3月24日の修了式では、昨年度に引き続き2つの学年のみであるが式典における礼法指導など行い、対面式で実施した。

① 学習指導

ア 新教育課程実施と観点別評価

今年度1学年から学年進行で実施しており、2・3学年については旧カリキュラムでの実施。

また、新教育課程実施に伴い、1学年から観点別により評価を行っており、各教科が評価基準を検討していく中で、新しく導入された統合型校務支援システム(C4th)により入力、成績処理を行う。

イ 習熟度別授業と少人数編成授業

習熟度別及び少人数編成授業の継続により、生徒の基礎学力の定着と向上を図っている。

習熟度別授業	外国語・コミュニケーション英語Ⅰ（3単位のうち1単位・1学年） 商業・財務会計Ⅰ（3単位・2学年）外国語・OCⅠ（3単位のうち1単位・3学年）
少人数編成授業	商業・簿記（6単位・1学年） 家庭・家庭総合（2単位・3学年） 体育（2単位・1学年2学年5クラス7講座／3単位・3学年5クラス7講座）

ウ 施設設備関連

5つの実習室に約200台のPCを有し、商業科目や「総合的な探究の時間」などの授業において、PC操作やアプリケーションソフトの習熟、インターネットの活用などを通して、自ら問題を発見し、解決する能力とプレゼンテーション能力の確立を図った。

エ 教育課程の進行管理及び適正実施

年間授業計画（シラバス）を基に、「週ごとの指導計画」を毎週作成し、指導計画の進行管理を行った。

オ 進路変更、中途退学者などについて

入選における応募倍率の低下により一般入試では全員入学を避けられず、学習意欲や学校生活の取組意欲が希薄な状況や、進路のミスマッチ及び中学時代から不登校等の状況により多くの進路変更があったものの、担任を始め教員の手厚い指導により中退率は低い水準で維持されている。

カ 一人1台端末活用の教育活動およびオンライン授業について

今年度1年生からは、一人1台端末の活用が始まった。本校では専門教科ではパソコン室の活用が中心となるが、普通教科や座学中心の専門教科においても積極的に活用している。昨年度に引き続き、コロナ禍における学習保障の観点から、積極的にオンライン授業を取り入れている。本校では全教員がオンライン授業実施するスキルを有しており、オンラインと対面授業を融合したハイブリッド授業も行っている。これらにより、効果的なICT機器の活用にもつながり、画面共有や実技や黒板の投影、書画カメラの活用、小テスト出題、採点とフィードバック、アンケート作成・集計など、効果的、効率的な学習方式が生み出されている。自習課題や小テストの指示を担当教員が自宅から配信するなど、生徒へのフォロー体制も取りやすくなった。

② 進路指導および生活指導、特別活動・部活動など

ア 進路指導について

今年度進路状況について、就職59名（40.4%）、進学78名（53.4%）、その他9名（6.2%）であった。就職者のうち1名が国家公務員（税務）に合格した。

今年度もコロナ禍の影響が残るが、就職活動は例年どおり始まった。就職は高校生の求人数は増加傾向にあり、今年度はコロナ禍後を見越した状況であった。しかし、就職を希望した生徒は40%ほどとなった。就職の内訳は、公務員1名含む。今年度は途中から就職に切り替えた生徒もあり、就職内定100%達成は3月までとなった。

進学希望者には、年間を通じて小論文の指導を9月後半から11月末まで複数回の小論文指導を実施、希望する進学先に進むことができた。高大接続改革に伴い、今年度から学校推薦型選抜、総合型選抜という名称になり、コロナ禍においてオンライン面接などを導入する大学も増えてきた。進学の内訳は、四年制大学38名、短期大学1名、専門学校等39名であった。

イ キャリア教育の推進

(ア) 卒業生による進路懇談会

就職、進学した卒業生を招いた進路懇談会を今年度も6月に実施した。就職先の企業からは趣旨を理解していただき、多くの卒業生が来校して在学中や現在の状況について聞くことができた。

(イ) 進路出前体験談

今年度も2月の卒業考査後に実施した。2年生の教室に3年生が5グループに分かれ出前して、就職や進学に頑張った話を直接聞く行事で、3年生がそれぞれの進路活動報告を冊子にして配布している。大卒でも入社が難しい会社への就職や公務員、指定校推薦や総合型選抜での大学や専門学校への進学の話など、2年生には夢の実現に向けて有意義であり、これをきっかけに奮起した2年生もいた。

(ウ) 職場見学会(インターンシップ)、分野別進路指導

2学年生徒を対象として、就職希望の生徒は会社を訪問して実際の職場を体験、進学希望の生徒は外部から講師を招聘し、進学希望の生徒は大学・短大受験対策指導、大学・短大・専門学校模擬授業、公務員採用試験対策指導を実施した。

ウ 生活指導

(ア) 基本的生活習慣の確立の推進

生活規律・授業規律について生活指導部が中心となり、学年や担任を中心に全教職員で恒常的な身だしなみや挨拶、遅刻の指導、授業規律の確保を図った。毎朝生活指導部・学年が昇降口で身だしなみや挨拶、遅刻の指導を実施した。時差登校で8時45分までに登校、教室でのSHRの遅刻を減少させたが、遅刻する生徒は常連化している。一方、卒業生の三か年皆勤者18名、精勤者34名、合計52名である。

(イ) 生徒の安全確保、安全管理の徹底

所轄の警察と連携して、振込詐欺防止を学ぶセーフティ教室を12月16日(月)に実施した。また、年間を通じて生活指導部及び学年で、登校時を中心に自転車の安全指導を行った。

避難訓練及び防災講話は、①4月30日(金)、②7月20日(火)、③9月1日(水)、④12月24日(金)に実施した。城東消防署の指導によりオンライン活用による机上訓練、目視による通報訓練、「東京マイ・タイムライン」でのシミュレーション等、コロナ禍においても実践可能な訓練内容の工を行った。

実施日	種別	内容
4月30日	地震	城東消防署の指導の下、東京消防庁ホームページ内の電子学習室メニューから震災対策についての自宅学習での机上訓練を実施
7月20日	水害対策 校内放送	火災時の心構えや行動について、消防署員による講話の後、ハンカチや布、画用紙等を活用して、目視できる状況下を作り、署員と生徒との間で通報訓練を実施した。
9月1日	地震・火災・ 水害オンライン	生活指導部が各区の作成しているハザードマップの活用方法について解説し、「東京マイ・タイムライン」で自身の状況を確認させ、避難のシミュレーションを想定させた。
12月24日	備蓄食料 配付	自然災害等の際、避難所における備蓄食料配布訓練を実施した。各クラスにおける人員点呼や備蓄食料の適切な配布と完了報告を実施した。

エ 特別活動・部活動

(ア) 地域と密着した特別活動の充実

3年ぶりに地元江東区の「はねかめ祭り」が7月10日に開催され、JRC部が行事運営の補助、吹奏楽部が舞台公演に参加して地元町会から感謝された。また秋の全国交通安全運動のポスターを有志の生徒が作成し、地元の亀戸梅屋敷にて公開され、地域の交通安全活動の推進に貢献した。

また本校の隣にある江東区立第二亀戸中学校との部活動連携では、屋上菜園のブルーベリーの提供を受け、本校クッキング部でマフィン作りの材料に活用した。

今年度初めての連携として、江東区青少年交流プラザ主催で、本校にてハイスクール体験として簿記部の生徒が進行役となり「マネーゲーム口座」を区内小学生・中学生を対象に実施した。

(イ) 部活動、生徒会活動の充実

<運動部>

男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、ソフトテニス部、バドミントン部、女子バレーボール部、軟式野球部、硬式テニス部、サッカー部、ダンス部、ソフトボール部、卓球同好会、水泳同好会がコロナ禍で感染防止策を徹底しながら活動した。

<文化部>

軽音楽部、華道部、吹奏楽部、JRC部、パソコン部、演劇部、茶道部、アニメコミック部、クッキング部、ワープロ部、百人一首同好会が、コロナ禍で縮小して活動した。

<生徒会>

毎月の生徒会新聞の発行により、活動内容を全校生徒に向けて発信した。今年度も花壇に花を植え、学校説明会で受付や自身の高校受験談発表、学校案内ビデオの作成、体験授業の案内、卒業生に向けての卒業式会場装飾を手掛けた。新型コロナウイルス感染防止ポスターを作成し、感染防止活動を推進した。

(ウ) 行事について

新型コロナウイルス感染防止のため中止されていた行事のうち、体育祭は規模を縮小した3学年一斉に実施することができた。一方江商祭については規模を縮小の上、規制が多い中ではあるが3年ぶりに実施することができた。これらの行事では、学年を超えた交流が実現して新たな行事の形としての始まりとした。また、校外学習、芸術鑑賞教室、卒業生を送る会などについても、感染防止対策を施した上で実施することができた。これによりクラスでの仲間づくりやクラスの親睦を図る機会を確保することができた。学校説明会においては生徒会役員が中心になり、校内案内や学校説明会の中で自分の入学の際に思いを中学生に伝えることができた。これらは中学生及び保護者の方に好評であった。なお、修学旅行は2年間にわたって中止とした。

オ 健康づくり

(ア) 新型コロナウイルス感染防止の安全対策

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止に向け、各学年とも教室前の廊下及び来客用に玄関にも消毒液を配置して校内消毒体制等を整えた。また、室内の二酸化炭素検知装置を配置して、教室の換気状況を確認している。引き続き生徒昇降口において、登校時にサーモグラフィを設置して発熱の状況を確認している。

(イ) 生徒に対する心身のケア

学校保健委員会で学校保健計画を作成し、生徒の心身のケアに万全を期した。スクールカウンセラー(SC)が週1日来校してカウンセリングを行い、いじめの防止、心のケアに成果をあげた。また、養護教諭を中心にSCや医師、担任等により生徒に関する情報共有ができています。

(ウ) 保健室機能の強化と生徒の健康づくり

養護教諭を中心に保健計画を作成し、定期健康診断や保健室業務などを通して健康づくりを推進した。身体的な健康保持増進にかかわる知識・理解、意識啓発など保健体育科や家庭科と連携を図れた。メンタル面の対応は、養護教諭、SCと担任が連携を図り、医療機関などの外部機関の協力を得ながら対応していくことができた。

カ 募集・広報活動

(ア) ホームページの充実と教育活動の発信

新しいホームページに移行して2年目となり、より各種情報を昨年度に比較して多く発信すること

ができた。特に学校案内パンフレット・ポスターを始め、常に新しい情報を発信するよう努めた。今年度終盤には特設の動画配信を行った。また、緊急時の情報発信や保護者に対しての教育活動の情報提供に39メールに加えて、Microsoft Teams を利用して発信・提供を始めた。

(イ) 学校説明会などの充実

例年応募倍率の向上を図るため、教員や生徒による中学校訪問、通常の学校説明会に加え、イブニング説明会や区及び中学校主催の説明会などを実施しているが、新型コロナウイルス感染対策で3密を防ぐ目的で説明会を縮小し、今年度も10月から電話による完全予約制を採用して実施した。生徒と保護者を合わせて延べ約437名（昨年度463名）の参加があった。

(ウ) 地域との交流の深化

新型コロナウイルス感染防止対策で、今年度も江東区主催の都立学校発表会など生徒が活躍する様子を見ていただく機会がなかった。学校施設開放は、地域の住民を対象にテニスコート開放は一部実施することができた。一方、公開講座として「ボッチャ教室」を企画して募集したが、残念ながら募集人数が充足できず中止となった。

キ 学校経営・組織体制

(ア) 企画調整会議と予算調整会議の効率化

企画調整会議での企画立案・連絡調整機能が定着し円滑な学校運営ができた。予算調整会議の的確な運営がなされ、経営企画室を中心として予算執行の進行管理が適切に行われた。

(イ) 校内研修の充実

今年度は新型コロナウイルス感染防止策を取り、1・2学期の授業公開、夏季休業中の中学生対象体験授業（3回）を実施した。校内研修会はオンライン学習について、実践事例を交えて実習室を利用して開催、教員の資質向上に役立った。若手教員育成研修（1・3年次教員研修）、中堅教諭等資質向上研修Ⅰを活用し、教職員の研修育成計画と定着化を図るため、研究授業を実施した。

(ウ) 施設設備の経年劣化の改善

特に空調設備の不具合や故障、施設・設備の経年劣化が多発しており、修理では対応しきれなくなっている。改築されてから20年以上経過しており抜本的な改修が必要である。特に新型コロナウイルス感染防止対策下で、十分な換気をしながらの冷暖房の併用は困難を極めた。

(2) 重点目標への取組と自己評価

① 生徒の進路実現のための取組み

ア 資格取得の取組み

全国商業高等学校協会検定	1 級	2 級	3 級
簿 記	会 計23名 原価計算18名	2 名	118 名
情報処理	—	21 名	102 名
商業経済	—	28 名	79 名
ビジネス計算	6 名	25 名	77 名
ビジネス文書	6 名	23 名	97 名
英 語	—	1 名	57 名

日本情報処理検定協会	1 級	準1 級	2 級
情報処理	16 名	3 名	13 名

	1 級	2 級	3 級
--	-----	-----	-----

日本商工会議所検定 簿記	—	—	1名
秘書技能検定	—	3名	16名

授業できめ細かく指導し、検定に向け放課後や週休日などの補習・補講を行い検定取得に取り組み、情報処理については、十分な成果を上げることができた。簿記検定では合格者数の結果が伴わなかった。全商3種目以上1級合格者（三冠）1名を出した。商業経済検定で全科目合格者2名。英語については、さらに基礎力の充実を図り成果を出す。

2月11日には3年ぶりに本校を会場としてビジネスアイデア発表会が開催され、都立商業高校でビジネスアイデアを履修している2年生の代表者が集まり、プレゼンテーションを実施した。

イ 長期休業日、週休日、放課後の補習・補講の実施

検定取得対策をはじめ各教科で放課後の補習・補講が充実できた。さらに、長期休業中や週休日・休日にも補習・補講を実施し、参加した生徒の学力の定着や向上、資格取得の増加が見られた。

ウ 進路指導の充実とインターンシップ・企業訪問の実施

進路指導部を中心として多くの教員が3学年生徒の面接指導を5回以上実施した。さらに、筆記試験対策指導、小論文指導も実施し、就職試験や推薦入試に効果が上がった。昨年度から本格的に実施予定だったインターンシップが今年度予定どおり実施できた。

② 本校の広報活動のための取り組み

ア 教育活動の質的向上

推薦選抜では昨年度から募集人数の割合が40%に増えた。応募倍率は0.75倍であった。第一次募集では最終的に0.58倍であった。一次出願で1.0倍を目標としていたことを考えると残念な結果となっている。今年度さらに都立高校における応募倍率が低調である中、商業系高校全体の募集倍率が厳しかった。第二次募集では0.38倍、第三次募集は応募者1名であった。合格者数は定員の175名、辞退が2名だった。最終的には、173名の入学許可者として、充足率は98.9%となった。今年度の応募状況について分析し、来年度に向けて更なる募集対策を充実・発展させることが喫緊の課題である。

身なりや時間管理、挨拶の励行などの基本的な生活習慣の確立や、学習の習慣化、資格取得、卒業後の進路に向けた手厚い指導など成果が上がった。本校の特色や取り組みについて中学校を中心に広く広報、発信したい。

イ 商業高校の広報活動の活性化

今年度もコロナ禍であったが、管理職を中心に中学校訪問の実施により商業高校の特長を伝え、訪問した中学校からの受検者増加につながった。また、在校生の母校訪問を実施した。

2 次年度以降の課題と対策～安心・安全な学校生活を目指して

(1) 学習指導の充実

令和4年度入学生から、生徒一人1台端末を活用した新たな学びが始まった。DX時代における「主体的・対話的で深い学び」の実現や情報活用能力の育成に向けての新たな教育活動である。導入にあたっては、保護者側からの家庭の通信環境の整備や購入代金に関する負担や支援策等への不安の払拭や校内での個人端末の管理方法など、準備段階からの丁寧な対応が必要であった。ICTリーダーとデジタルサポーターの連携により、本校ではすべての教員がICTスキルを身に付け、オンライン学習を実施できるまでに実を結んだ。今後とも教師自身がICT活用指導力の向上の必要性を理解し、自ら研鑽を深め、授業改善や進路指導の変革、校務効率化による働き方の改善等に向けての取り組みが重要である。そのための更なる校内研修の充実を引き続き進めたい。

(2) 生活指導、進路指導の充実

① 基本的な生活習慣の指導

引き続き生活規律・授業規律を確認して、身だしなみ（服装・髪型）、挨拶の励行、時間管理、言葉づかい、交通マナー遵守の指導を適切に行い、落ち着いた学習環境の確立や最低限のルールやマナーの遵守など規範意識の醸成につなげる指導を推進していく。

② 進学指導の充実

進学希望者への教科指導や個別相談指導を充実させる。進路指導部を中心に大学進学などの進学指導に必要な情報収集を行い、学校推薦型入試や総合選抜型入試に対応できるよう小論文指導や面接指導を早い時期から実施する。また、オンラインでの面接試験に対応する指導を実施する。

③ 外部機関との連携の強化

企業訪問や進路講演会、懇談会などを開催して、企業や関連諸機関、地域との連携をより強め、卒業後の進路意識の啓発と職業観・勤労観、規範意識の醸成や思いやりの心の育成を図る。

④ 高度資格取得

学習の成果定着のために資格検定取得に取り組ませる。実力のある生徒には上位級の取得を目指した指導を強化する。さらに、生徒の希望や社会的ニーズの高い資格取得に対応した指導を関係教科で取り組んでいく。これらの指導に向けた研修を関係教員は重点的に取り組み、授業や補習・補講などの校内指導体制を整備する。

(2) 募集・広報活動と入学選抜応募倍率の拡大を目指して

これまでの教育活動の取組みと実績により、生徒の保護者や地域、関係者などからの評価は高い。本校の教育活動の一層充実と現在の生徒の状況や社会情勢を斟酌した広報を行い、本校への入学を望む志の高い生徒をより多く確保し商業高校の雄を目指す。本校の目指す教育は、卒業後の進路実現のために、身だしなみ、挨拶、時間を守る指導など規律ある学校生活の確保と、落ち着いた学校生活のもと学力向上を図ることである。推薦入試 1.5 倍以上、一般入試 1.0 倍以上の応募倍率を目標に、募集・広報活動をさらに充実させる。

(3) 自己肯定感や成就感、達成感を高めることを目指して（学校行事、部活動の活性化）

本校を希望して入学するものの、学年進行とともに学校を中心とした生活を送っていない生徒が増加、学業面や生活面での問題が散見される状況がある。学校行事への取組意欲や満足度は比較的高いが、部活動に対しての意識や関わりが薄い生徒が多くなっている。コロナ禍を契機として一部の部活動を除いて実質的な活動が停滞している。顧問の関わりを密にし、外部指導員を活用するなど技術指導を充実させる工夫が必要である。

部活動全体の活性化を図り、多くの生徒が放課後や休日に学校で活動する状況を創り出す。あらゆる場面で賞賛することを始め、自己肯定感や成就感、達成感を高めることを目指していく。

(4) 教員の資質向上を目指して（校内研修の充実）

各教科とも授業内容をより充実させ、資格取得と就職を目指すだけでなく、大学などの上級学校でさらにレベルの高い勉強や上級資格の取得を目指すことが必要である。また、コロナ禍での学力保障や自宅学習における授業内容の確保を目指してオンライン学習の進展、ICT 機器を活用した分かりやすい授業や、探究的で深い学びを目指して授業展開することが必要である。さらに生徒が様々な場面で自らの学びの成果などをアウトプットすることが重要である。教員の指導力を高めるための研修と情報の共有など、校内研修を充実させ、教員の授業力向上、意識改革を目指していく。